

(2) 政策的医療に関する評価チェックシート

評価の定義

- 期待どおり又は期待以上
- △ 事業の実施に問題はないが一部に改善の余地有り
- × 事業の実施に支障有り。或いは法令違反有り。

評価項目	事業計画書の内容	評価対象事項	令和2年度の実績	自己評価	自己評価分析	市評価	評価所見																																																																																																		
①救急医療	<p>令和元年度は、指定管理開始であったことから4月の救急搬送数は66件でしたが、院内の体制整備を図り、月平均95件（H31.4～R2.1実績）に増加いたしました。（H30月平均47件）また、救急搬送以外の救急患者に対しても、月平均178件（H31.4～R2.1実績）と増加しています。（H30月平均118件）また、救急患者のうち、入院加療が必要な患者は、約4割であり、地域の二次救急医療機関としての役割を担っております。</p> <p>令和2年度においても、あま市唯一の二次救急病院として、救急医療の提供に取り組むため、近隣の消防署と症例検討会等の勉強会の開催を通じて、連携を深めていきます。また、脳出血や心筋梗塞等の緊急に人命に関わる疾患等は、名古屋第一赤十字病院等の高次の医療機関へ適正に搬送するなど、地域の中核病院として役割を担っていきます。また、平日の日中は救急担当医を配置し、診療所、施設等からの救急患者の受入れを積極的に行います。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td></td><td>目標値</td></tr> <tr><td>救急患者数</td><td>3,000人</td></tr> <tr><td>救急搬送数</td><td>1,200件</td></tr> </table>		目標値	救急患者数	3,000人	救急搬送数	1,200件	<ul style="list-style-type: none"> ・救急患者数 ・救急搬送件数 	<p>令和元年度の年間救急搬送件数は、1,110件（月平均92.5件）であり、令和2年度は、1,348件（月平均112.2件）となり、前年対比121.4%に増加いたしました。年度初めは新型コロナウイルス感染症による受診抑制等の影響もありましたが、整形外科の常勤医師の着任に伴い、外傷性疾患の受入体制が強化されたことにより、救急搬送件数が増加したものと考えられます。また、救急搬送患者のうち、入院加療が必要な患者は、約37%であり、地域の二次救急医療機関としての役割を果たしていると考えます。ただし、救急搬送以外の時間外・休日受診においては、令和元年度の件数は、2,095件（月平均174.6件）であり、令和2年度は、1,525件（月平均127.1件）となり、前年対比72.8%に減少いたしました。要因として考えられるのは、新型コロナウイルス感染症の流行による受診抑制ならびに感染予防によるインフルエンザ等の受診者が減少したものと考えられます。令和3年度においても新型コロナウイルス感染への対応しつつ、あま市唯一の救急告示病院として、救急医療の提供に取り組んでまいります。</p> <p>また、令和3年2月には、海部東部消防署より救急車両を寄付いただきましたので、今後は救急車両を活用しながら、さらなる救急医療の充実に努めてまいります。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td></td><td>実績値</td></tr> <tr><td>救急患者数</td><td>2,873人</td></tr> <tr><td>救急搬送数</td><td>1,348件</td></tr> </table>		実績値	救急患者数	2,873人	救急搬送数	1,348件	△	救急医療においては、総合診療科を中心に幅広い疾患への対応を図りました。整形外科の常勤医師着任に伴い、断らない救急医療を強化したことにより、外傷性疾患の受入体制が強化され結果となりました。引き続き、近隣の消防署等との連携強化を図り、救急告示病院としての役割に努めて参ります。	○	救急患者数は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、目標に達しなかったものの、救急搬送数は目標値を上回る実績となった。又、あま市運営時から比較すると救急搬送件数は、約2.4倍となっており「断らない救急」が期待どおり実践されているものと評価する。																																																																																						
	目標値																																																																																																								
救急患者数	3,000人																																																																																																								
救急搬送数	1,200件																																																																																																								
	実績値																																																																																																								
救急患者数	2,873人																																																																																																								
救急搬送数	1,348件																																																																																																								
②小児医療	<p>令和元年度は、総合診療科を中心とした体制に変更し、小児救急の時間外・救急搬送の受け入れは、平成30年度月20件に対し、令和元年度は、月平均40件（H31.4～R2.1実績）となりました。令和2年度においても、引き続き、一次救急の役割を果たし、入院治療など必要な場合は近隣の医療機関と連携してまいります。また、月曜日から金曜日は、小児科外来を設置し、風邪、発熱、下痢、嘔吐などの一般的な小児疾患からアレルギー疾患等の専門外来等も行い、地域の診療所からの受入れを積極的に実施いたしました。なお、小児入院におきましては、関係職種と調整し、受入体制を検討してまいります。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td></td><td>目標値</td></tr> <tr><td>小児外来患者数</td><td>3,154人</td></tr> <tr><td>小児入院患者数</td><td>0人</td></tr> </table>		目標値	小児外来患者数	3,154人	小児入院患者数	0人	<ul style="list-style-type: none"> ・患者数 	<p>令和2年度は、令和元年度と同様に総合診療医と大学医局からの非常勤医師と連携した診療体制とし、小児救急ならびに一般小児科の外来診療の対応をいたしました。しかしながら、診療体制等の変更が無いにも関わらず、外来患者数が減少し、前年対比30.3%（R1年度1日平均12.0人/日、R2年度1日平均3.6人/日）となりました。要因として、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、外出抑制、感染症対策の強化・普及等により、風邪、発熱、下痢、嘔吐などの一般的な小児科疾患の罹患率の低下等により患者数が減少したものと考えます。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td></td><td>実績値</td></tr> <tr><td>小児外来患者数</td><td>884人</td></tr> <tr><td>小児入院患者数</td><td>0人</td></tr> </table>		実績値	小児外来患者数	884人	小児入院患者数	0人	△	常勤の小児科専門医は2名おりますが、総合診療科として業務をしているため、小児科外来は非常勤を中心とした体制としています。非常勤のため、各医師の診療が曜日により異なる為、患者が定着しなかったことが要因と考えます。さらに、新型コロナウイルス感染症に伴う影響もあり、患者数が減少しました。引き続き、小児医療の充実に図ります。	△	新型コロナウイルス感染症の影響でインフルエンザ疑いの患者が激減したことを考慮しても、外来患者の実績が、目標値に対し約30%であり、大きく下回っている。今後小児医療の充実に期待する。																																																																																						
	目標値																																																																																																								
小児外来患者数	3,154人																																																																																																								
小児入院患者数	0人																																																																																																								
	実績値																																																																																																								
小児外来患者数	884人																																																																																																								
小児入院患者数	0人																																																																																																								
③リハビリテーション医療	<p>令和2年度より休棟している病棟を回復期リハビリテーション病棟として稼働させ、近隣の急性期病院との連携を図り、海部医療圏で不足している回復期機能を充実させます。また、回復期リハビリテーション病棟稼働に向けて、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の療法士を15名体制から約30名体制に増員させ、さらに手厚いリハビリテーション医療が提供できる体制整備を図ります。これにより、令和元年度（総単位見込：約40,000単位）より約1.8倍の単位数を提供できることを見込んでおります。</p> <p>さらに令和2年度より整形外科の手術を開始することもあり、さらにリハビリテーション医療を提供する機会が増加することを見込んでおります。ただし、現状のリハビリテーション室は約250㎡であることから、今後、利用者の増加により、より安全にリハビリテーションを実施する場合には、リハビリテーション室の拡張が必要と考えております。つきましては、リハビリテーション室拡張についてあま市のご支援をいただければと考えております。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td></td><td>一般病棟</td><td>地域包括ケア病棟</td><td>回復期リハ病棟</td><td>合計</td></tr> <tr><td rowspan="5">入院</td><td>運動器リハビリ</td><td>5,000単位</td><td>4,000単位</td><td>30,000単位</td><td>39,000単位</td></tr> <tr><td>脳血管疾患リハビリ</td><td>3,000単位</td><td>2,000単位</td><td>15,000単位</td><td>20,000単位</td></tr> <tr><td>廃用症候群リハビリ</td><td>15,000単位</td><td>10,000単位</td><td>30,000単位</td><td>55,000単位</td></tr> <tr><td>計</td><td>23,000単位</td><td>16,000単位</td><td>75,000単位</td><td>114,000単位</td></tr> <tr><td>外来</td><td>運動器リハビリ</td><td></td><td></td><td>1,800単位</td></tr> <tr><td>脳血管疾患リハビリ</td><td></td><td></td><td></td><td>200単位</td></tr> <tr><td>廃用症候群リハビリ</td><td></td><td></td><td></td><td>—</td></tr> <tr><td>摂食機能療法</td><td></td><td></td><td></td><td>1,400回</td></tr> </table>		一般病棟	地域包括ケア病棟	回復期リハ病棟	合計	入院	運動器リハビリ	5,000単位	4,000単位	30,000単位	39,000単位	脳血管疾患リハビリ	3,000単位	2,000単位	15,000単位	20,000単位	廃用症候群リハビリ	15,000単位	10,000単位	30,000単位	55,000単位	計	23,000単位	16,000単位	75,000単位	114,000単位	外来	運動器リハビリ			1,800単位	脳血管疾患リハビリ				200単位	廃用症候群リハビリ				—	摂食機能療法				1,400回	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション実施件数 	<p>これまで休棟していた病棟を回復期リハビリテーション病棟として稼働させ、令和2年4月稼働当初は、1日平均患者数15.5人でしたが、近隣の急性期病院との連携を図り、令和3年3月には、1日平均患者数37.8人と大幅に増加しました。この背景の1つにリハビリテーション室の療法士の増員があります。令和元年度は16名（令和2年3月末時点〈派遣含む〉）でしたが、令和2年度は32名（令和3年3月末時点〈派遣含む〉）となったことが回復期リハビリテーション病棟の稼働率向上につながったと考えます。その他にも1年前より、準備委員会を設置し、運用面の検討、広報活動、人材確保等々において関係部署と検討を重ねてきた成果と考えます。</p> <p>ただし、患者数増加ならびに感染対策などにより、十分なリハビリテーションを行うスペースを確保できないことから、1患者あたりの提供単位数は、約5.7単位（R2.4月～12月）から直近の1～3月の実績では、約4単位と低下したため、令和3年度はさらなる療法士数の増員ならびにリハビリスペースの確保が課題と考えます。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外来リハビリテーションについては、中止せざるを得ない状況となり、十分な医療提供が実施することができませんでした。</p> <p>令和3年度におきましては、あま市よりリハビリテーション室の拡張工事を実施いただくこともあり、利用者の方により安心、安全な医療を提供でき、さらにリハビリテーション医療の充実に期待できるものと考えます。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td></td><td>一般病棟</td><td>地域包括ケア病棟</td><td>回復期リハ病棟</td><td>合計</td></tr> <tr><td rowspan="5">入院</td><td>運動器リハビリ</td><td>11,355単位</td><td>7,487単位</td><td>32,377単位</td><td>51,219単位</td></tr> <tr><td>脳血管疾患リハビリ</td><td>6,740単位</td><td>4,609単位</td><td>21,316単位</td><td>32,665単位</td></tr> <tr><td>廃用症候群リハビリ</td><td>4,390単位</td><td>3,515単位</td><td>—</td><td>7,905単位</td></tr> <tr><td>呼吸器リハビリ</td><td>7,862単位</td><td>3,628単位</td><td>—</td><td>11,490単位</td></tr> <tr><td>計</td><td>30,347単位</td><td>19,239単位</td><td>53,693単位</td><td>103,279単位</td></tr> <tr><td rowspan="4">外来</td><td>運動器リハビリ</td><td></td><td></td><td></td><td>161単位</td></tr> <tr><td>脳血管疾患リハビリ</td><td></td><td></td><td></td><td>—</td></tr> <tr><td>廃用症候群リハビリ</td><td></td><td></td><td></td><td>—</td></tr> <tr><td>摂食機能療法</td><td></td><td></td><td></td><td>6,918回</td></tr> </table>		一般病棟	地域包括ケア病棟	回復期リハ病棟	合計	入院	運動器リハビリ	11,355単位	7,487単位	32,377単位	51,219単位	脳血管疾患リハビリ	6,740単位	4,609単位	21,316単位	32,665単位	廃用症候群リハビリ	4,390単位	3,515単位	—	7,905単位	呼吸器リハビリ	7,862単位	3,628単位	—	11,490単位	計	30,347単位	19,239単位	53,693単位	103,279単位	外来	運動器リハビリ				161単位	脳血管疾患リハビリ				—	廃用症候群リハビリ				—	摂食機能療法				6,918回	△	回復期リハビリテーション病棟開棟に伴い、リハビリテーション医療を提供する機会が増えましたが、患者数の増加に対し職員数の増員が年度当初十分ではありませんでした。また、新型コロナウイルスの影響もあり外来リハビリが令和2年5月以降中止になり目標値に単位数が届きませんでした。令和3年度は職員数増加により、前年度より単位数が見込まれます。	△	令和2年度から回復期リハビリテーション病棟が開棟したため、運動器リハビリ、脳血管疾患リハビリが目標値を大きく上回り、入院のリハビリ提供単位数は前年度から約2.3倍となった。一方で、外来は新型コロナウイルス感染症の影響で外来リハビリが5月から中止したことで目標値を大きく下回っている。令和3年度中に、リハビリテーション室を約100㎡拡張することからリハビリテーションの充実に期待する。
	一般病棟	地域包括ケア病棟	回復期リハ病棟	合計																																																																																																					
入院	運動器リハビリ	5,000単位	4,000単位	30,000単位	39,000単位																																																																																																				
	脳血管疾患リハビリ	3,000単位	2,000単位	15,000単位	20,000単位																																																																																																				
	廃用症候群リハビリ	15,000単位	10,000単位	30,000単位	55,000単位																																																																																																				
	計	23,000単位	16,000単位	75,000単位	114,000単位																																																																																																				
	外来	運動器リハビリ			1,800単位																																																																																																				
脳血管疾患リハビリ				200単位																																																																																																					
廃用症候群リハビリ				—																																																																																																					
摂食機能療法				1,400回																																																																																																					
	一般病棟	地域包括ケア病棟	回復期リハ病棟	合計																																																																																																					
入院	運動器リハビリ	11,355単位	7,487単位	32,377単位	51,219単位																																																																																																				
	脳血管疾患リハビリ	6,740単位	4,609単位	21,316単位	32,665単位																																																																																																				
	廃用症候群リハビリ	4,390単位	3,515単位	—	7,905単位																																																																																																				
	呼吸器リハビリ	7,862単位	3,628単位	—	11,490単位																																																																																																				
	計	30,347単位	19,239単位	53,693単位	103,279単位																																																																																																				
外来	運動器リハビリ				161単位																																																																																																				
	脳血管疾患リハビリ				—																																																																																																				
	廃用症候群リハビリ				—																																																																																																				
	摂食機能療法				6,918回																																																																																																				

(2) 政策的医療に関する評価チェックシート

評価の定義

- 期待どおり又は期待以上
- △ 事業の実施に問題はないが一部に改善の余地有り
- × 事業の実施に支障有り。或いは法令違反有り。

評価項目	事業計画書の内容	評価対象事項	令和2年度の実績	自己評価	自己評価分析	市評価	評価所見																								
④保健衛生事業	<p>子宮がん検診、乳がん検診、事業所検診等をはじめとし、個人健診や予防接種など幅広い保健衛生事業を実施いたします。また、ヘルスプロモーション事業として、糖尿病の健康教室などの公開健康講座等を開催し、市民の健康づくりに寄与します。なお、令和元年度は、感染管理講座等を開催し、地域住民だけでなく、地域の施設、事業所等に対しても保健衛生活動を実施いたしました。令和2年度においても、地域住民、施設関係者等々への啓蒙活動や市と共同した保健衛生活動を実施するなど、さらなる健康増進・維持、健康な地域づくりに取り組まします。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>子宮がん・乳がん検診</td> <td>200人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>企業健診等</td> <td>1,800人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>予防接種</td> <td>800人</td> <td>肺炎球菌、インフルエンザ等</td> </tr> </tbody> </table>		目標値	備考	子宮がん・乳がん検診	200人		企業健診等	1,800人		予防接種	800人	肺炎球菌、インフルエンザ等	<ul style="list-style-type: none"> ・子宮がん、乳がん検診の実施件数 ・企業健診等の実施件数 ・予防接種の実施状況 	<p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により事業所検診等をはじめとした健診事業においても一部制限せざるを得ない状況となりましたが、従来の1階健診センターではなく、2階外来スペースを使用するなど、可能な限り対応いたしました。また、市民の健康増進等を目的にオンライン（ZOOM）による感染管理講座、糖尿病予防に関する講座を実施するほか、あま市が計画したフレイル予防活動教室「笑って元気スクール」に、理学療法士等を派遣し、地域の方々に対して栄養・運動・社会について講演するなど市の事業においてもサポートいたしました。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域の介護タクシー事業者向けのガイドラインを作成し、講習会を開催するなど、地域住民のみならず、関係事業所に対しても感染予防・衛生活動を実施いたしました。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>実績値</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>子宮がん・乳がん検診</td> <td>342人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>企業健診等</td> <td>1,402人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>予防接種</td> <td>136人</td> <td>肺炎球菌、インフルエンザ等</td> </tr> </tbody> </table>		実績値	備考	子宮がん・乳がん検診	342人		企業健診等	1,402人		予防接種	136人	肺炎球菌、インフルエンザ等	△	<p>コロナ禍の影響により、健診業務については、一時受付を停止するなど、前年度よりも大きな改善にはいたりませんでした。しかしながら、内部的な業務フローについては、あま市運営時の運用から各作業工程において様々な改善を行い、より安全かつ効率的な業務のあり方を模索しました。</p>	△	<p>保健衛生事業として目標に掲げたがん検診については、目標値を上回った。一方で、企業健診、予防接種については新型コロナウイルス感染症の影響で目標値を下回った。しかし、オンラインを活用した講演などに積極的に取り組んだことは評価する。</p>
	目標値	備考																													
子宮がん・乳がん検診	200人																														
企業健診等	1,800人																														
予防接種	800人	肺炎球菌、インフルエンザ等																													
	実績値	備考																													
子宮がん・乳がん検診	342人																														
企業健診等	1,402人																														
予防接種	136人	肺炎球菌、インフルエンザ等																													
⑤災害時医療	<p>あま市地域防災計画に基づき、地域の消防署、行政機関等の関連機関との連携を強化し、地域で災害が発生した際には、行政との連携のもと災害時救急患者の受入を積極的に対応できるよう必要な研修、訓練等を実施いたします。なお、地域の消防署と共同でトリアージ訓練等の計画、実施を検討してまいります。また、新型コロナウイルス感染症等の新型ウィルスのアウトブレイクにも市と連携、協力して対応を図ります。</p> <p>また、災害発生時に必要な救急用医薬品、医療材料、防災備品等を整備し、災害時における医療要員の参集体制などBCPマニュアルの策定を行います。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>頻度</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>災害対策研修</td> <td>2回/年</td> <td>地域の総合防災訓練、災害時における医療提供体制に関する研修</td> </tr> <tr> <td>トリアージ</td> <td>適宜</td> <td>傷病者の受入れを速やかに行う訓練</td> </tr> <tr> <td>その他訓練・研修</td> <td>適宜</td> <td>その他災害時における訓練、研修等</td> </tr> </tbody> </table>		頻度	内容	災害対策研修	2回/年	地域の総合防災訓練、災害時における医療提供体制に関する研修	トリアージ	適宜	傷病者の受入れを速やかに行う訓練	その他訓練・研修	適宜	その他災害時における訓練、研修等	<ul style="list-style-type: none"> ・研修等の実施状況 ・訓練の実施状況 	<p>あま市地域防災計画に基づき、地域の消防署、行政機関等の関連機関との連携を強化し、地域で災害が発生した際には、行政との連携のもと災害時救急患者の受入を積極的に対応できるよう院内訓練（年2回実施）を実施するほか、備蓄の見直し及び備蓄品の更新を行いました。</p> <p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症により地域の防災訓練、研修等の機会が減りましたが、地域感染症によるBCPを策定し、災害時医療と同等の対応を実施いたしました。</p> <p>また災害対策用マニュアル並びに災害時事業継続計画（BCP）を策定しました。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>実施日</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>防災避難訓練</td> <td>9月12月</td> <td>院内における日中及び夜間を想定した避難訓練を実施。併せて浸水防護壁設置訓練と消火器噴霧訓練も実施。</td> </tr> <tr> <td>海部地方総合防災訓練 あま市総合防災訓練</td> <td>適宜</td> <td>コロナ対策のため中止</td> </tr> </tbody> </table>		実施日	内容	防災避難訓練	9月12月	院内における日中及び夜間を想定した避難訓練を実施。併せて浸水防護壁設置訓練と消火器噴霧訓練も実施。	海部地方総合防災訓練 あま市総合防災訓練	適宜	コロナ対策のため中止	○	<p>法令で定められている訓練を実施し、災害時等に対応できる対策を図りましたが、地域の防災訓練はコロナの影響により開催が見送りととなりました。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症に対しては、ICTを中心に院内の感染対策、保健所からの依頼に対する受入方法など速やかに実施したこともあり、院内感染の発生はありませんでした。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症における速やかな対応については、行政、地域のボランティア、企業等からの支援もあったからこそ、対応できたものと考えます。</p>	○	<p>災害時医療として目標に掲げた、院内の防災避難訓練に関しては、災害を想定してしっかりと行うことができた。</p> <p>また、ICTが中心となって、新型コロナウイルス感染症の院内感染対策や感染拡大防止を徹底したことは評価する。</p>			
	頻度	内容																													
災害対策研修	2回/年	地域の総合防災訓練、災害時における医療提供体制に関する研修																													
トリアージ	適宜	傷病者の受入れを速やかに行う訓練																													
その他訓練・研修	適宜	その他災害時における訓練、研修等																													
	実施日	内容																													
防災避難訓練	9月12月	院内における日中及び夜間を想定した避難訓練を実施。併せて浸水防護壁設置訓練と消火器噴霧訓練も実施。																													
海部地方総合防災訓練 あま市総合防災訓練	適宜	コロナ対策のため中止																													